

対談者

半田市 市長

榊原 純夫 様

半田青年会議所 理事長

曾根 香奈子



「利他の心」を持ったリーダーになつてください。

曾根 曾根香奈子（以下曾根） 本日はお時間をいただきましてありがとうございます。また、先日の新春賀詞交歓会にお越しいただき、ありがとうございました。

半田市市長榊原純夫様（以下市長） ようこそおいでくださいました。新春賀詞交歓会では、曾根理事長の立派なご挨拶を拝聴させていただきました。

曾根 とんでもないです。お恥ずかしいです。市長 本日は宜しく願います。

曾根 宜しく願います。半田市が昭和12年に誕生し、市政81年という長い歴史を迎える中で、市長が3期目を迎えるにあたり、3つの施策として、1つ目に防災、2つ目に教育、そして3つ目に観光振興という2つ目に掲げられています。また、その施策の最後に書かれています。1期2期目で種をまき、そこに3期目で芽を出していくという言葉が印象的で、私が掲げる「置かれた場所であつくと」という言葉に近く、とても印象深く素敵だと思つきました。それでは、具体的に市長が考える「活力あるまち」とはどのようなものか、3つの施策を中心に教えていただきたいです。

市長 日本は少子高齢化が進んでいて人口減少の状況ですが、幸いなことに半田市は人口が増

加しており、一時12万人を割り込みましたが、今年の1月1日現在あと100人ほどで12万人台に回復する状況となっております。30代・40代の働く若い男性の数が減っています。これは市民の皆様、会議所、議会のご理解とご協力もあつたのですが、臨海部の企業誘致を補助金制度も設けて積極的にやっています。これを功を奏して、トヨタ系の企業さんや、株式会社SUBARUさんがボーイング新型機の777X用の工場を作っていたり、1,000人、2,000人規模の雇用の方ができたことが人口増加につながっていると思います。

ただし残念ながら、義務教育課程の小中学生の数が今年初めて1万人を割りまして、9,000人台に落ち込んでしまいました。お子さんがたくさんいるまちと過ごす、子育てのしやすさ、お子さんが生き生きと過ごす、子育てのしやすさ、まちというのは非常に大切な部分です。

少子化は1年2年では解決できないのですが、半田市が子育てしやすい環境の良いまちということをしてPRして、小中学生のお子さんの数が1万人を超えるまちにしていきたいです。

小さなお子さんからお年寄りまで、いつも笑顔で過ごせるまちにしていきたいと思つています。

曾根 ありがとうございます。私は半田で生まれ育ち、結婚して岡山県に行つたのですが、私も含めて同級生も、半田を離れても戻ってくる方が多いのです。



そこは住みやすい半田と謳っています通り、知多半島には山も海もあり、高速道路や鉄道で都市部に行きやすいという環境がとても良いということが理由だと考えています。

市長 ありがとうございます。

曾根 青年会議所の活動期間である20〜40歳というのは、一番の働き盛り世代で、家庭を持ち、子育てもしている正会員もいます。そんな中で仕事とは別に、青年会議所活動させていただき、このように市長と会談までさせていただくことは、とても光栄なことであり、半田青年会議所の諸先輩方の実績があつてこそだと考えております。そこで行政が、我々半田青年会議所の、若い世代がまちづくりをするうえで期待することはありますか。

市長 矢勝川での彼岸花を植えるハナノヒカリプロジェクトですとか、子どもさんのわんぱく相撲大会など、小さな子どもにも夢や希望を与え、そのことを、すでにやっていたいただいていますので、あのようなことをもっとやっていたいただきたいです。先日の賀詞交歓会でも、歴代理事長達の顔写真を見ますと、OBを含めた半田青年会議所の皆さんが半田市の歴史上に、いかに重要な役割を果たしてきたかということがよく分かります。それこそ、半田市の経済、文化、政治の世界の、一種の「虎の穴」のような存在であると思います。歴代の理事長のご挨拶を拝聴していますと、自分たちの求めている理念などを言葉の中に表現いただいています。

青年会議所さんの活動は確かに地道なものであるとは思いますが、その過程で個人個人が鍛えられて、一人の成人として、きっちり自分と自己形成する場であり、これまでの半田市の歴史や経済に反映されていると思います。単なる半田青年会議所という存在を超えて、歴史の中にイズムというものが生きていて、歴史の中

今後その伝統を大事にしていきたい、これからも半田市の歴史と伝統を守っていただく養成の場であっていただきたいと考えております。**曾根** 私が「これだ」と常々思うものを言っていたことがあります。おっしゃる通り、活動というものは確かに目に見えにくいですが、

実は半田青年会議所の仲間達が、いろんな面で働いているということ、半田市に負けないくらいに情報の発信をしていきたいです。

市長 逆に、我々が半田青年会議所さんについていきますよ。

曾根 まだまだ我々の方が追いついていないです。市長のSNS関連の更新頻度の速さはすばらしく、追いついていないので、私達が逆に、「これだ」と言えるし、わかりとしたものがなければならぬと思います。

市長 半田市は総合計画といって、10年ずつの計画に基づいてまちづくりを進めています。

毎年、市民の代表の方に評価委員になっていただき、現状はどうですかとお聞きしているのですが、まだまだ情報の発信力、PRが足りないと言われています。これは行政の永遠の課題かもしれない、半田市がどのようなスピードの時代になると、半田市がどのようなことが当面の目標で、何を目指しているのかを早いテンポで、

迅速に情報提供をしていかなければいけないと思います。そういった面では半田青年会議所さんの、若いスピード感あふれる情報発信力で、半田市の情報も発信していただき、我々が得意とする層とは違う若い方に対して、SNSでの情報発信をしていただくように、ご協力をお願いしますし、期待もしています。

曾根 ありがとうございます。我々も勉強させていただきます。また、市長がまちづくりを通して人格形成をおっしゃったのは、その通りだと思います。青年会議所は単年度制で役が変わってしまいます。1年しかやることができない、その役を全うするために、日々考えながら責任を持って100%で行動し、今年の活動が終わる12月31日に、そして卒業した後にも、数々の先輩方がこの地域で活躍しているように、我々も人格形成をしていかなければと思います。

市長 ありがとうございます。期待しております。



曾根 先日の賀詞交歓会の際にも挨拶で話しましたが、国連で全会一致にて採決された「持続可能な開発目標」SDGsについても話をさせていただきます。発足から4年たっているのですが、2019年度の日本青年会議所会頭の、SDGsを推進する日本一の団体でいきたいという強い思いから、今年から全国で推進しています。我々もまだ勉強中なので、地域に推進するために学んでいかなければいけないのですが、SDGsという言葉だけでも、心の片隅にでも置いていただければと思います。ここからは、今年SDGsを担当するメンバーへ進行を代わりたいたいと思います。

間瀬理子（以下間瀬） SDGsの推進を担当している55周年特別会議の間瀬です。宜しくお願います。

SDGsについて簡単に説明をさせていただきます。半田市は今後観光を打ち出していくと聞いております。私達なりにSDGsの項目を当てはめてみますと、観光という項目は、17の目標項目の中で、8項と12項と14項にあてはまります。

このようにSDGsを特別に意識しなくても、必然的にSDGsに関連してくるというものを発信して、推進していくのが今年の私達の取り組みなのです。

これは「誰一人取り残さない社会」を作るために、皆が携わることができるといいます。

そのため、小学生や大学生、企業や各種団体にも積極的に推進していきたいと思えます。行政も今後活用していくと思えますし、私達も始めたばかりですので、一緒に取り組んでいけたら良いと思います。

そのためにも、分かりやすく、さらには皆が携わることのできる取り組みであることを知っていただくために、SDGsのカードゲームがありますので、担当者の方と一緒にこのゲームをして学んでいただければと思います。我々もまだ人に説明できるわけではないのですが、市役所の方々と今年1年一緒に協力してやっていければと思います。

市長 日本は世界中の取り組みの中でのランキングが10番ちよつとくらいで、まだまだ未達の部分があるということですが、すべての項目が行政として取り組まなければならないことだと思えます。

国の不平等などは1自治体では取り組めないかもしれないかもしれませんが、全国市長会という組織がありまして、東京23区を入れると800人少しの市長がいます。そのようなところで全国的に取り組む項目であると思えますので、私も皆さんの想いを頂戴してがんばらせていただきたいと思います。

曾根 宜しくお願います。実は観光で該当する8項には、「働きがいのある経済成長」という言葉があるので、17の持続可能な開発目標には、さらにその下に169のターゲットがあります。事細かく見ると、半田市の観光というものが、8項の9番というところにある「2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業を促進するための政策を立案し実施する。」という部分にあてはまるということを知り、市長と対談をさせていただくにあたり、逆に勉強になりました。

市長 少し前の世界的な経済学者の話ですと、「観光産業は21世紀を支えていく主要な産業であり、裾野が広く、雇用面でも経済面でも非常に大きな力を秘めている。」と書いてありましたので、まさしく半田市もそのように踏み出していきたく思います。

直接は関係ないかもしれませんが豊橋の「カレーうどん」や高浜の「とりめし」などのように、観光というものは現場へ行って物を買ったり食べたりするところに大きな魅力があるのですが、半田市の街で思い浮かぶような名物がぱつと出てこないもので、ぜひ半田青年会議所の方で、半田の美味しい食べ物の定番を提唱していただきたいと思います。これを食べにきてくださるというものを作っていただくと、PRにもなるので良いと思います。

曾根 確かに、豊橋の「カレーうどん」は青年会議所が関連していますね。

市長 豊川の「いなりずし」もそうですし、半田もぜひ何か期待させていたいただきたいです。半田市内で食べ比べられるようなものを、何年かかけてでもやっていただくと嬉しいですね。

曾根 そう言っていただけだと嬉しいですね。ありがとうございます。

市長 青年会議所の方々は高邁な理念を持っていますので、それは堅持をしていただいて、さつき言いました「虎の穴」ではありませんが、私の好きな言葉でもあります「利他の心」を持ち、諸先輩のように今後も半田市のみならず、知多地区、愛知県、そして日本のリーダーたる人材を輩出する場であってほしいし、地道に地域の様々な課題に提唱をしていただけるオピニオンリーダーとしても成長を期待しています。

今後皆様活躍に期待をさせていただきます。メールとさせていただきます。



榊原 純夫 様

昭和24年1月8日生まれ。
京都府立大学農学部卒業。
半田市役所に勤務したのち、平成21年6月24日より半田市長に就任し、現在3期目を務められています。